

関西広域連合 関西広域観光ルートのご案内

トータルテーマ

日本文化の真髄 KANSAI周遊街道

「KANSAIを見ずして、
日本を見たことにはならない！」

KANSAIには日本の原点と未来がある。

千年以上もの長きに渡り日本の歴史・文化の中心であり続けてきたKANSAIには、豊かな自然との共生や人々の生活の営みの中から育まれてきた様々な伝統文化が存在する。

世界遺産を始め、神社仏閣、史跡、伝統工芸、食の文化や温泉などの癒し文化、祭りなどが、個性豊かな地域文化と相まって集積している。

(国宝の約6割、世界遺産の約4割が関西(福井、三重、奈良県含む。)に存在)

また、伝統と現代の融合から最先端の技術・文化を生み出し続けている。

これらの多様な資源の中から、KANSAIの魅力伝えるテーマ、ストーリーにより、周遊するための広域観光ルートを提案する。

提案ルートのお考え方

主なターゲット・前提

- 海外観光客
- 個人旅行型、体験型、長期滞在型、リピート型
- 4泊以上(KANSAIを周遊するため)
- 基点は、大きな観光地、市、地域など
- テーマとストーリーで基点を結ぶ。

◎テーマルート

KANSAIの魅力的な観光地を周遊する提案ルート 8本

第1ルート 「初めてのKANSAI満喫」 (時空を超えた古人の道を辿る)

○京都→琵琶湖→宇治、奈良→大阪→神戸

第2ルート 「日本人の心の聖地を辿る」

○白浜→那智勝浦→伊勢志摩→琵琶湖→京都、大阪

第3ルート 「伝説の瀬戸内海と秘境景観を辿る」

○淡路島→鳴門、徳島→にし阿波→姫路→大阪

第4ルート 「KANSAIの遺産を辿る」

○奈良→京都→舞鶴、天橋立、城崎→ジオパーク、鳥取、境港→姫路、大阪

第5ルート 「KANSAIで癒しと健康」

○白浜→徳島、鳴門→南阿波→神戸→京都、琵琶湖→大阪

第6ルート 「COOL KANSAI 体感」

○神戸→徳島→境港→鳥取→京都→宝塚、大阪

第7ルート 「エンターテインメント KANSAI」

○神戸→京都→琵琶湖、甲賀→大阪→和歌山

第8ルート 「KANSAIの自然を辿る」

○(東ルート) 那智勝浦、串本→高野山→琵琶湖→舞鶴、天橋立→大阪

○(西ルート) 淡路島→祖谷→大山→ジオパーク→大阪

※基点は代表的なものであり、KANSAIには、他にも奥深い資源がたくさん存在。

好みに応じて組み合わせることで、より魅力あるKANSAI周遊が体感できる。

KANSAI 広域観光 第1 ルート

テーマ：初めてのKANSAI満喫

【時空を超えた古人（いにしえびと）の道を辿る】

Story

○悠久の歴史を有するKANSAIは、歴史上、各地に都が置かれ、日本の政治、経済、文化の中心地であり続けた。

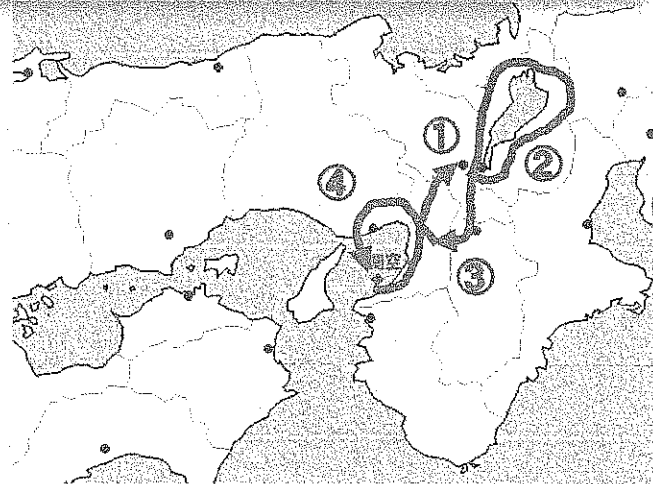
KANSAIは、自然と人々の暮らしが共生し、東アジアの人々との交流の歴史の中で、もたらされた文化が育まれて、独自の発展をとげてきた。まさに日本の歴史と文化の神髄が集積した宝庫である。

古からの都を辿れば、奈良や京都を中心に、滋賀、大阪、兵庫へと、いくつかの都が造られたが、千五百年ほどの間、このKANSAIの地を出ることはなかった。

六世紀に日本に伝来した仏教は、大阪の難波津から、飛鳥へと入り、都移りとともに、人、物、文化の流れとなり、それが道となって、今日に至るまで時空を超えてつながっている。

また、日本で最大の湖である琵琶湖は四百万年の歴史を持ち、世界でもバイカル湖などに次いで古い古代湖といわれており、古の昔から水の恵みをもたらし、湖上交通路としても利用されてきた。

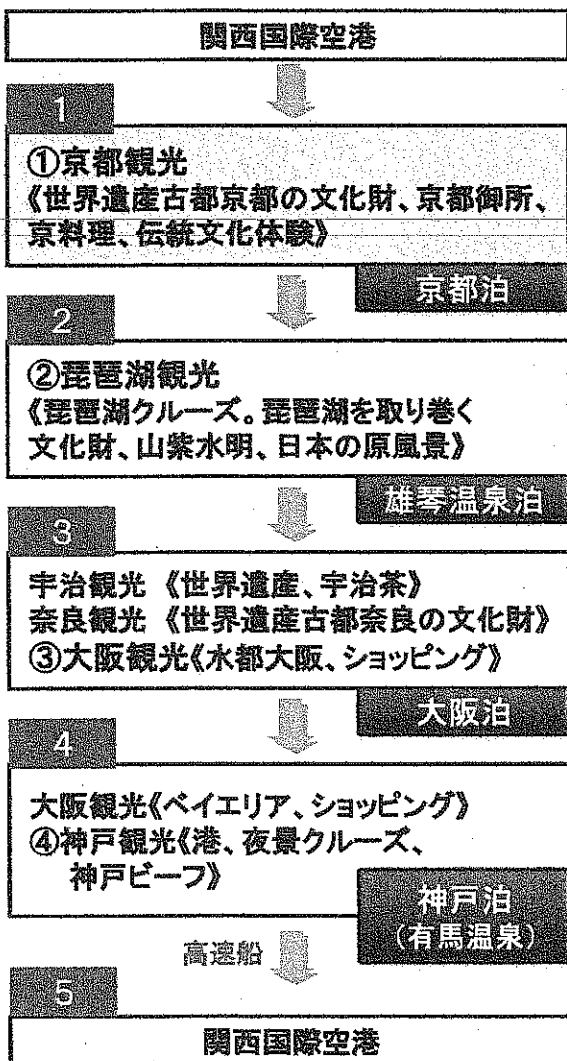
それらの地に残されている文化遺産なども巡りながら、日本の古人が辿った古の道を時空を超えて体感する。



サイドストーリー

大陸文化との融合

仏教伝来とともに伝わった寺院建築は、当時の朝鮮半島の様式が今でも法隆寺に見ることができるが、奈良時代には中国の様式が加わり、平安時代には、和様として、三十三間堂、平等院鳳凰堂、延暦寺根本中堂など、日本独特の様式へと変化した。鎌倉時代には、東大寺南大門などの天竺様や、禅宗とともに唐様が伝わり、室町時代の頃になると、これらが融合し、金閣寺など日本独自の建築に発展した。



清水寺
(世界遺産)

清水の舞台

日本人の誰もが知っていることわざに「清水の舞台から飛び降りる」がある。

思い切って行動をする例えとして使われるが、江戸時代には、「命をかけて飛び降りれば悪い事がかなう」と多くの人が飛び降りたといわれている。

なんとも、思い切ったことをするものである。
高さは約13メートル。



琵琶湖風景



比叡山延暦寺 (世界遺産)



京料理

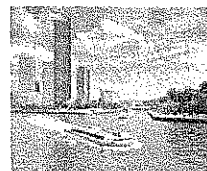
興福寺五重塔
(世界遺産)

「写真提供：
奈良市観光協会」

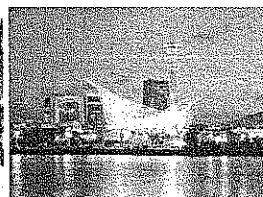


彦根城 (国宝)

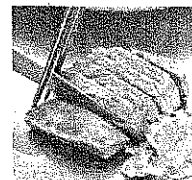
水都大阪



大阪ショッピング



神戸夜景 (日本三大夜景)



神戸ビーフ

画像は転載不可

KANSAI 広域観光 第2 ルート

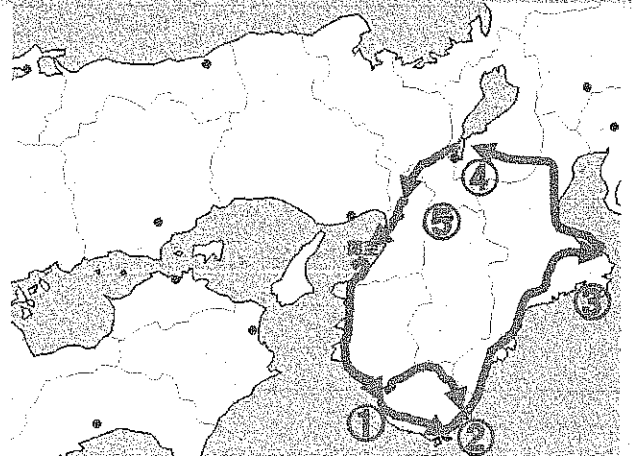
テーマ：日本人の心の聖地（パワースポット）を辿る

Story

○関西の南に位置する紀伊半島は、海岸線や原生林など自然豊かで古から神々が鎮座する場所だと信じられてきた靈験なところとして、平安時代の頃から歴代天皇の行幸をはじめ、多くの人々が訪れてきた聖地。

昔から神と崇められた那智の滝をご神体とする那智大社、全ての熊野古道が一つになる本宮大社、古から熊野権現として信仰を集める速玉大社、これら熊野三山では古の人々が浄土を目指し参詣し、また山岳信仰から発達した修験道など、熊野信仰が作りだした道が熊野古道となって今日も人々を引きつける。

この熊野三山と弘法大師空海が開いた山上の宗教都市高野山や吉野・大峯などの霊場とそれらを結ぶ参詣道や約二千年の歴史を有する伊勢神宮を辿る。平安時代に貴族の参拝から始まった伊勢参りは、江戸時代には庶民にも広まった日本の観光の原点といえる。現在も残るこのパワースポットを辿りながら、古の旅人として時空を超えた日本人の心の聖地・ふるさとを体感する。



サイドストーリー

日本独自の宗教観「神仏習合」

紀伊山地の霊場と参詣道は世界遺産に登録されたが、東アジアの宗教文化の交流と発展を例証するものであることなどが登録理由とされる。

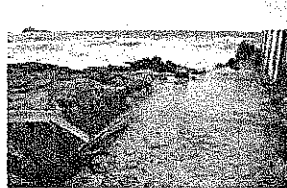
東アジアから伝わった仏教と日本古来の神道が習合した日本人の宗教観、そして心、建築物、自然が一体となった文化的景観などに触れることができる。

関西国際空港

1

①白浜観光《熊野古道、海岸、温泉》

白浜温泉泊



白浜温泉（日本三古湯）



熊野古道（世界遺産）

2

海岸ルート・世界遺産(本宮)ルート

②那智勝浦観光《熊野古道、那智の滝》
OP 本宮大社

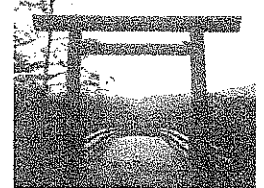
那智勝浦泊



那智の滝（日本一の滝）



マグロ料理

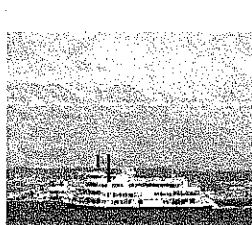


伊勢神宮

3

③伊勢志摩観光《伊勢神宮、鳥羽》

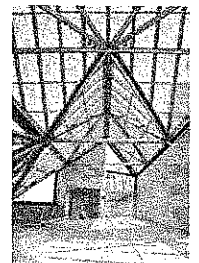
伊勢志摩泊



琵琶湖クルーズ



比叡山延暦寺
（世界遺産）



MIHOミュージアム

4

④琵琶湖観光《クルーズ、比叡山延暦寺、
MIHOミュージアム、甲賀忍術村》

大津泊

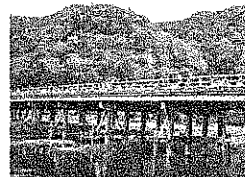
5

⑤京都観光《伝統文化体験》
大阪観光《ショッピング、グルメ》

大阪泊



道頓堀グルメ・日本橋ショッピング



嵐山散策

6

関西国際空港

画像は転載不可

KANSAI 広域観光 第3 ルート

テーマ：伝説の瀬戸内海と秘境景観を辿る

Story

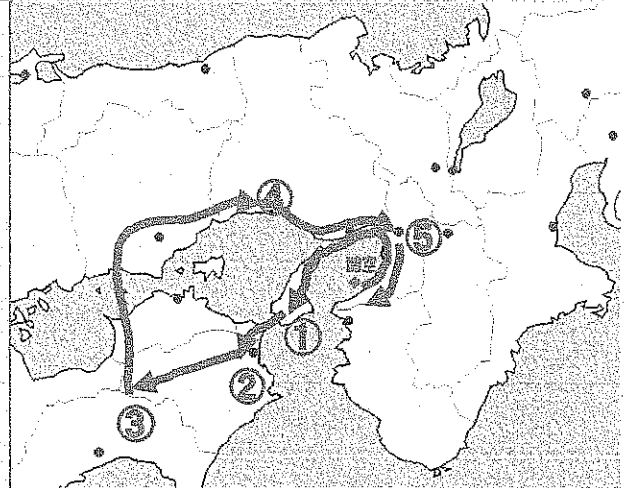
○古より日本の交通の大動脈であった「瀬戸内海」は、風光明媚な景観で知られ、古くは万葉集でも詠われ、源氏物語、土佐日記などの中世文学にも登場してきた。

古から九州の大宰府と大阪の難波津を結ぶ航路としての役割を果たし、また東アジアからの大陸文化も、中国とは遣唐使船をはじめ、宋、明など各時代に渡り、そして朝鮮とは遣新羅船や朝鮮通信使船などにより、この瀬戸内海の海の道を通じてもたらされ、日本の各地に道となって伝わっていった。

近代の十九世紀には、シーボルトなど欧米人に「The Inland Sea」として、その沿海景観が絶賛され、世界にも知られることとなった。

また、十二世紀に瀬戸内海での戦に敗れた平家の落人が架けたといわれる「かずら橋」が残る徳島「祖谷」の断崖絶壁景観と秋の紅葉の溪谷美は壮観であり、「日本三大秘境」の一つに数えられるほど、日本の原風景が残されている。

瀬戸内海をまたぐ世界有数の長大橋を渡り、沿海と山間の絶景を巡りながら、日本の景観美を体感する。



サイドストーリー

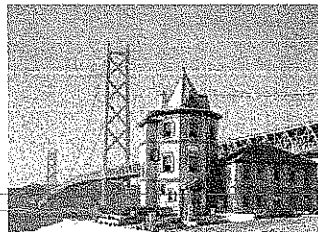
瀬戸内海の水軍

古代から航路として発展した瀬戸内海には、当然のごとく海賊が生まれた。数々の島々と入り組んだ海岸線は隠れるには打って付け。この海賊がやがて水軍となり、戦国大名とつながり大きな勢力を持つようになった。日本が海洋国家であることがよく分かる歴史でもある。

関西国際空港

① 淡路島観光《明石海峡大橋、あわじ花さじき、淡路夢舞台》

淡路島泊



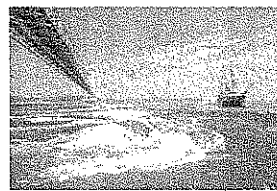
明石海峡大橋（世界一）と孫文記念館



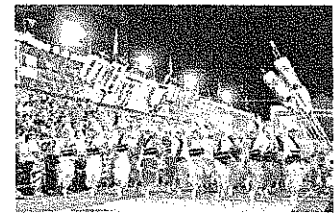
あわじ花さじき

② 鳴門、徳島観光《渦潮、阿波踊り体験》

徳島泊



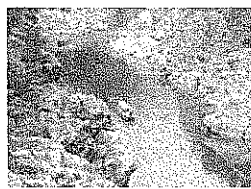
鳴門渦潮（世界三大潮流）



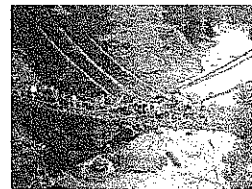
阿波踊り体験

③ にし阿波観光 《大歩危・小歩危、祖谷のかずら橋、うだつの町並み》

大歩危・祖谷温泉郷泊



大歩危・祖谷（日本三大秘境）・かずら橋（日本三奇橋）



④ 姫路観光《姫路城、姫路セントラルパーク》

姫路泊



姫路城（世界遺産）



⑤ 大阪観光《ショッピング、ベイエリア、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン》
OP 京都観光《古都京都の文化財》

大阪泊

⑥

関西国際空港

画像は転載不可

ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®
© & © Universal Studios. All rights reserved.

KANSAI 広域観光 第4 ルート

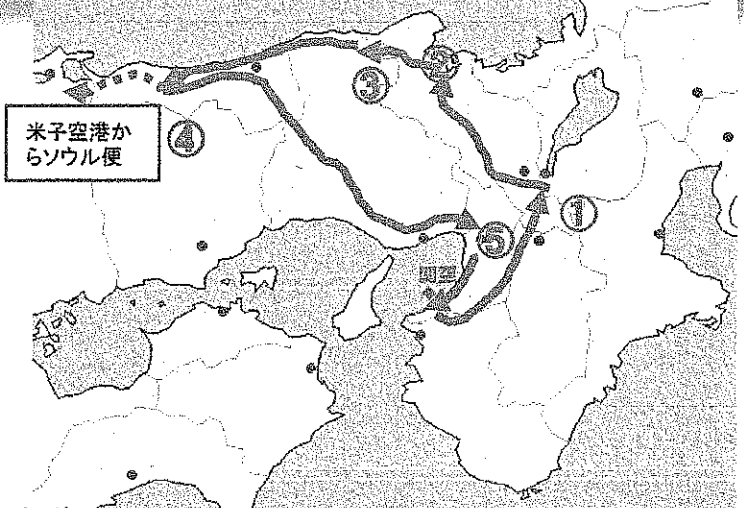
テーマ：KANSAIの遺産を辿る

Story

〇歴代の都が置かれ、日本の中心地として発展をとげてきたKANSAIには、悠久の歴史における大陸との文化交流があり、多くの文化がKANSAIにもたらされてきた。それらは日本独自の発展をとげ、現在、残された一部が世界文化遺産として登録され、その数5件は、国内の文化遺産の半数を占める。

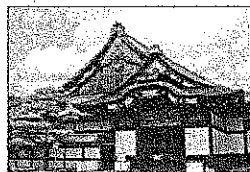
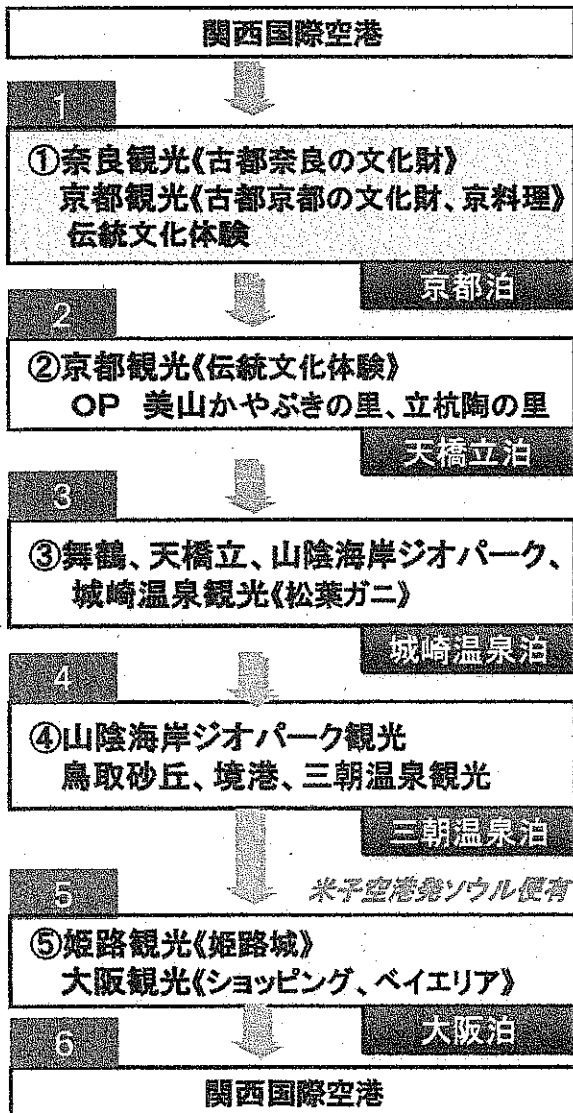
また、世界無形文化遺産として登録された「能楽」「人形浄瑠璃文楽」「歌舞伎」などの古典芸能や、食文化、茶道、華道など伝統文化の多くの発祥はこのKANSAIにある。これらは文化の道となって各地に広まり、その文化を育んできたKANSAIの風土、人々の精神性や美意識を、時空を越えて体感する。

KANSAIには、自然遺産にも恵まれ、科学的に貴重で、美しい地質遺産のジオパークが存在する。ここでは、古くから人々の生活の場となっていて、多彩な自然を背景とした人々の文化・歴史がある。



サイドストーリー 「祭」

無形文化遺産には、芸能、伝承、社会的慣習、儀式、祭礼、伝統工芸技術などがあるが、その中でも日本の祭は、その数1万以上とも言われるぐらい日本中隔々まで存在している。古より、人々が神々に祈りを捧げ、豊作や無病息災などを願ってきた祭は、踊りや御輿など様々な形で表現され、地域の絆を保つという大きな役割を担いながら、現代まで伝わってきている。これらを体験することも日本文化を知る上で、欠かせない。



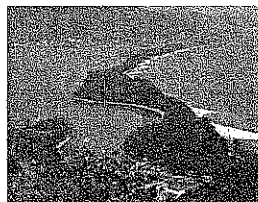
二条城二の丸御殿
(世界遺産)



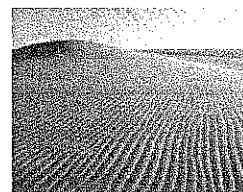
立杭陶の里 (日本六古窯)



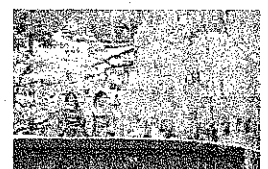
美山かやぶきの里



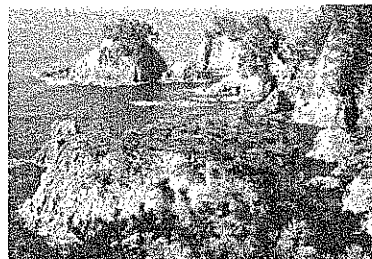
天橋立 (日本三景)



鳥取砂丘 (日本一)



城崎温泉



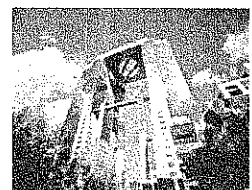
山陰海岸ジオパーク
(大地の公園・地質遺産)



松葉ガニ



姫路城
(世界遺産)



梅田ショッピング

画像は転載不可

KANSAI 広域観光 第5 ルート

テーマ：KANSAIで癒しと健康

Story

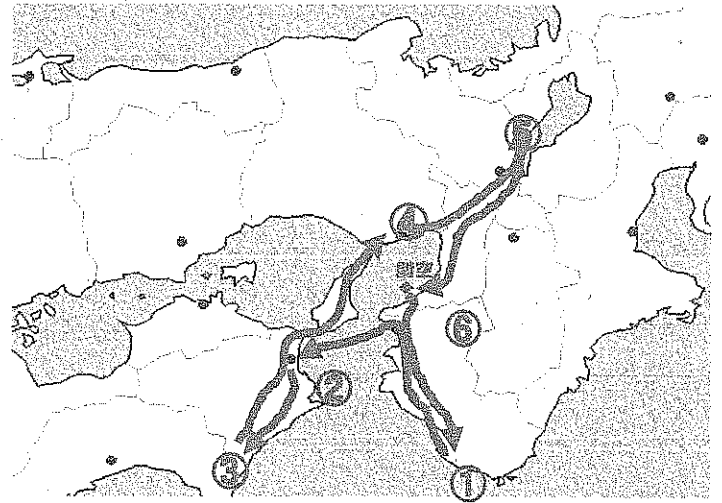
○日本には古から続く温泉地が三千箇所を超えるといわれ、日本の最も古い文献である「古事記」や「日本書紀」、「風土記」、「万葉集」にも温泉地が登場する。

これらによると、「伊予の湯」(道後温泉)、「牟婁の湯」(白浜温泉)、「有間の湯」(有馬温泉)が古くから記され、「日本三古湯」とされる。

古から人々は、温泉を神聖なものとして崇め、疲労回復、保養、療養など湯治の目的で利用してきた。温泉地には、温泉だけでなく、環境、食事などによる効果もあり、日本の温泉は、特に露天風呂など、大自然と一体となった温泉が特徴といえる。

古来からの湯治文化も、近代以降は観光の大きな要素として観光地に姿を変えてきた。

これら四季折々の美しい自然の景観、郷土料理など、心癒す日本文化や心身の癒しと健康を体感する。

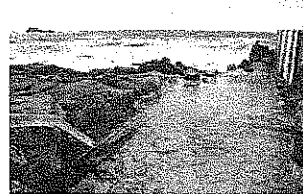
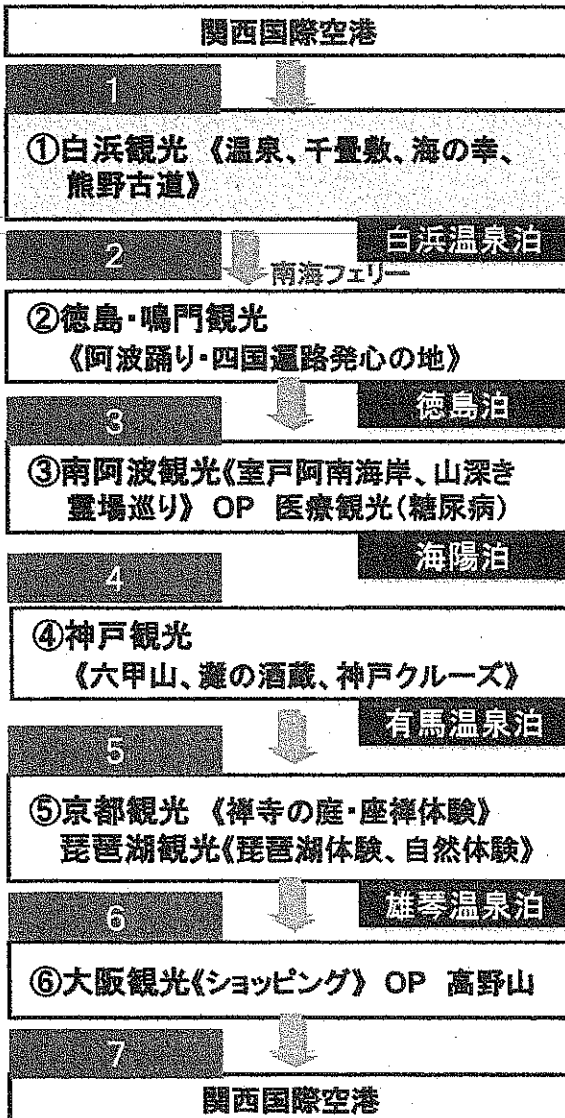


サイドストーリー

古からのヘルストゥリズム

日本では、湯治という、今で言うところのヘルストゥリズムは古から身近なものであったが、最近では医療観光も含めた癒し、健康、美容を求める観光が注目を浴びている。

長寿国日本としては、自然、環境、健康食である食文化などの生活文化は世界に誇る観光資源といえる。



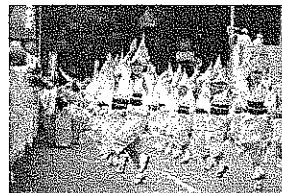
白浜温泉 (日本三大古湯)



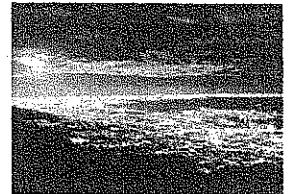
熊野古道 (世界遺産)



有馬温泉 (日本三大古湯)



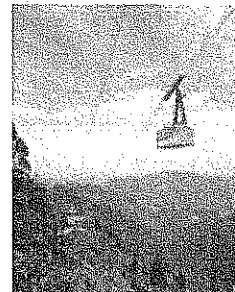
阿波踊り体験



六甲山夜景 (日本三大夜景)



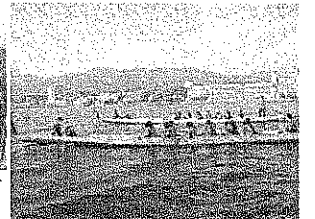
退蔵院・座禅体験



太龍寺ロープウェイ (西日本最長)



大阪ショッピング



琵琶湖カヌー

※他にも高野山の精進料理体験や龍神温泉(日本三美人の湯)などの奥深い資源がたくさん存在。

画像は転載不可

KANSAI 広域観光 第6 ルート

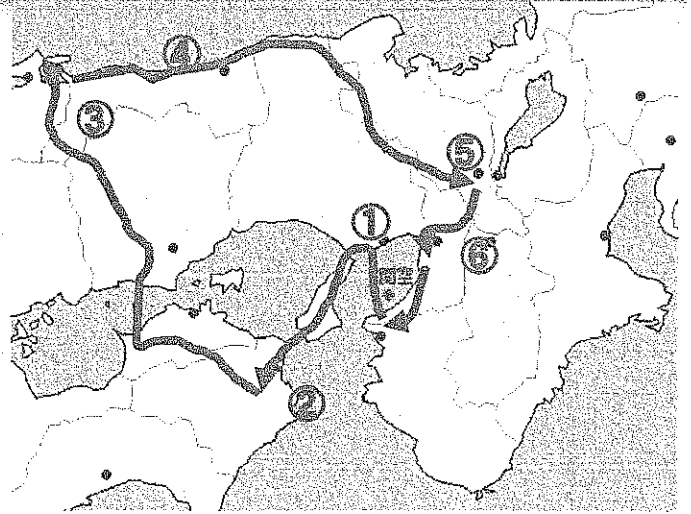
テーマ：COOL KANSAI 体感

Story

○世界文化遺産でもある京都の高山寺には、日本最古のマンガといわれる平安時代の鳥獣人物戯画が伝わるように、日本が世界に誇るマンガやアニメの原点がKANSAIにはある。また動物たちを擬人化する想像力は今日のキャラクター文化にも通じるものがある。

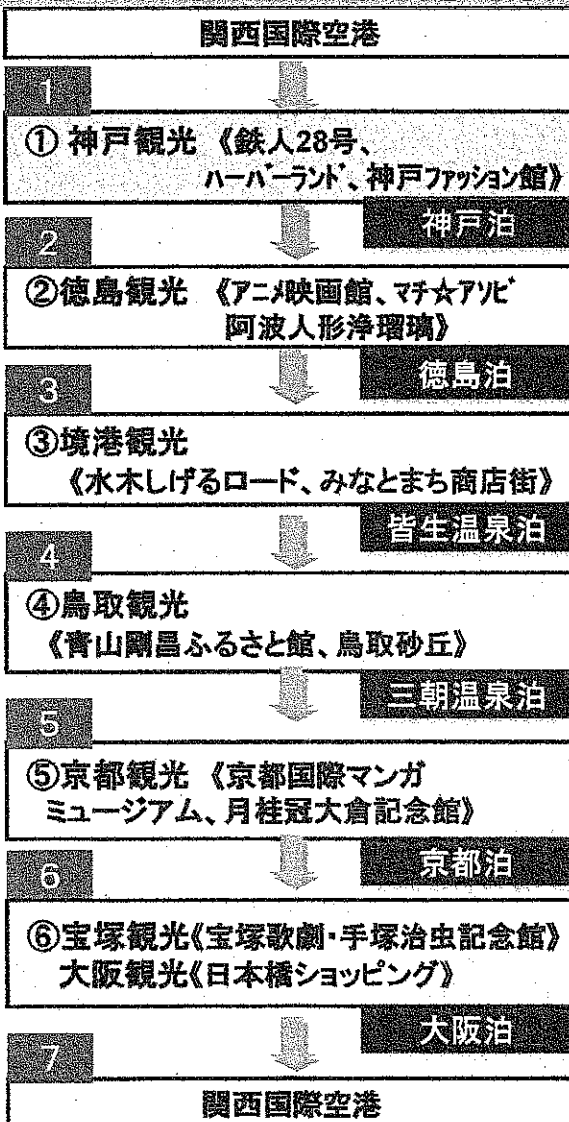
現代のマンガ、アニメのパイオニア、手塚治虫の記念館やマンガを研究対象として世界に発信する京都国際マンガミュージアムなど、伝統文化とポップカルチャーが共存共栄して進化しており、今、伝統文化とされるものも、最初はポップカルチャー（大衆文化）であった場合も多く、時代時代によって新しいものを生み出してきたのがKANSAIの特徴といえる。

また、同様に伝統と最先端が融合してきたのが「KANSAIのものづくり」である。京都では伝統の匠の技がベンチャー企業にも活かされ、東大阪の町工場をはじめとする各地の企業でもKANSAIならではの「技」を受け継いでいるところがある。これら各地に存在するものづくり、コンテンツや、B級グルメなどの食文化も含め、クールなKANSAIを辿り体感する。

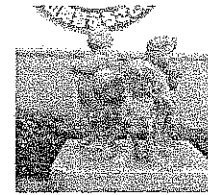


サイドストーリー 新たな聖地巡礼

最近ではKANSAIのアニメの舞台を聖地として巡ったりするなど、KANSAIの音楽、小説、ドラマ、映画などの舞台が注目されている。この新たな聖地と若者向けのコンテンツ産業が一体となったコンテンツツーリズムが注目される。



神戸長田 鉄人28号
©光プロ/KOBE鉄人PROJECT 2012



名探偵コナン
青山剛昌ふるさと館 境港 水木しげるロード



阿波人形浄瑠璃



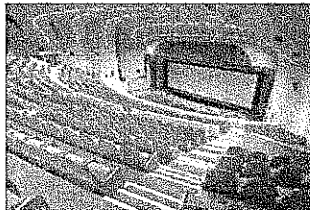
徳島
アニメ映画館・マチ☆アソビ (春・秋)



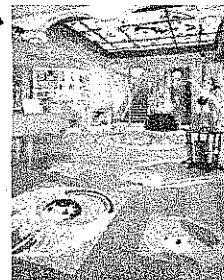
京都国際マンガミュージアム



月桂冠
大倉記念館



宝塚歌劇



手塚治虫記念館

※他にも東映太秦映画村、アニメの舞台、サントリー山崎蒸留所、伝統工芸など、COOLで奥深い資源がたくさん存在。

画像は転載不可

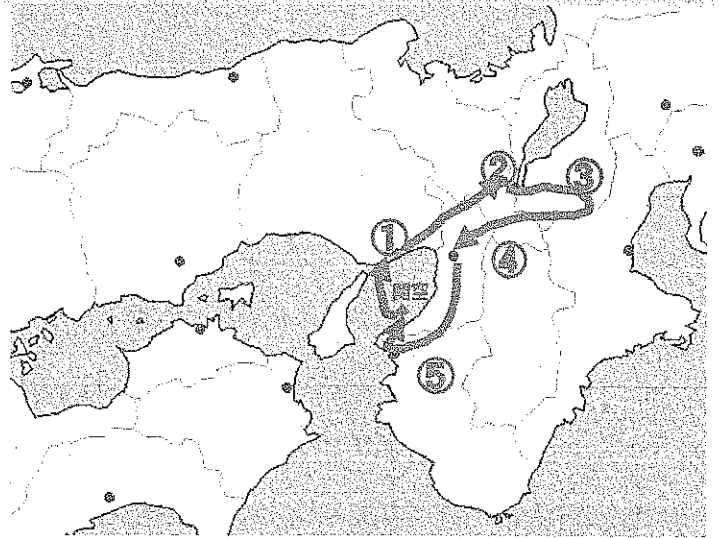
KANSAI 広域観光 第7 ルート

テーマ：エンターテインメントKANSAI

Story

OKANSAIは、悠久の歴史において、日本の政治・経済・文化の中心であり続けてきたが、その間には、無形世界文化遺産にも登録された伝統三芸能といわれる能楽、歌舞伎、人形浄瑠璃文楽をはじめとする古典芸能や、いろんな形の祭など、様々な文化遺産の発祥の地となり、それらは現在でも各地に伝承されている。

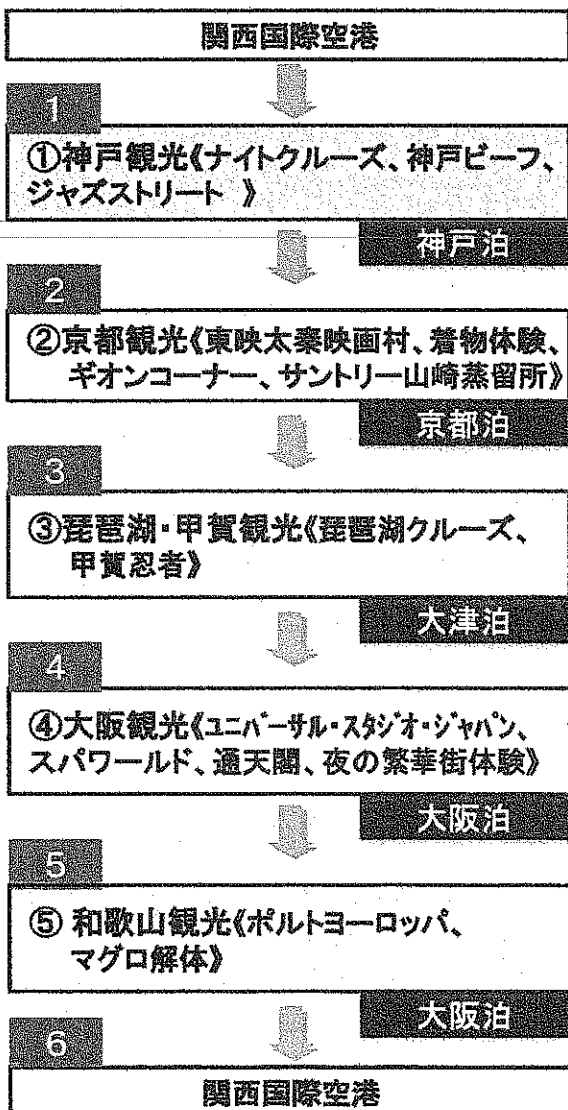
近代に入ると落語、漫才、喜劇等のお笑い文化など、多様なエンターテインメントが生まれ育ったところである。これら各種芸能や各地にあるエンターテインメント施設などを辿り、日本のエンターテインメントの原点を体感する。



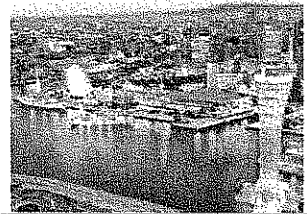
サイドストーリー

歌舞伎と宝塚歌劇

創立100周年を迎える宝塚歌劇は女性のみでの構成による劇団として、結成以来数多くの人材を排出してきている。一方、京都において、女性である出雲の阿国が男装して始めた「かぶき踊り」が現在の歌舞伎の元祖といわれているが、歌舞伎はやがて男優が女役を演じることになった。それぞれ、その伝統を守り今日、日本を代表するエンターテインメントになっている。これは日本のおおらかな文化により発展してきたものなのか。また、この発想が独特の少女マンガなどマンガ文化にも通じるのでは。



神戸北野坂（ジャズライブ）



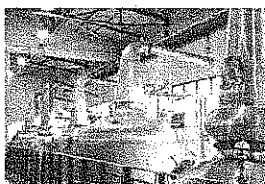
神戸ナイトクルーズ



ギオンコーナー



東映太秦映画村



サントリー山崎蒸留所



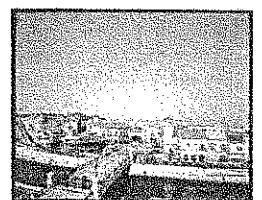
甲賀忍者



ユニバーサル・スタジオ・ジャパン®
© & © Universal Studios. All rights reserved.



大阪城



ポルトヨーロッパ

※他にも神戸スイーツ街や能楽・文楽・歌舞伎等の伝統芸能観劇などの奥深い資源がたくさん存在。

画像は転載不可

KANSAI 広域観光 第8-1 ルート(東ルート)

テーマ：KANSAIの自然を辿る

Story

○日本では、古の昔から、人々は多様な気候風土を有する日本特有の自然と共生してきた。

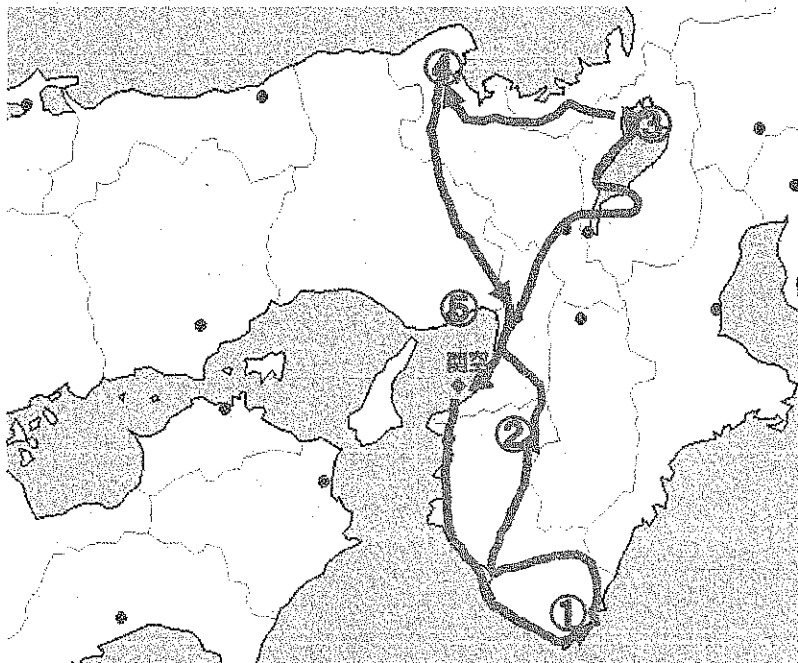
人々は自然を畏敬の念を持って敬い慈しみ、山岳宗教を代表とされるように、自然には神々が存在するとして、各地に神社などが置かれるようになっていった。

また、仏教など寺院も山中に多く置かれるなど、山の多い日本ならではの自然との共生文化が発展してきたといえる。

人々の生活も自然とともにあり、四季折々の里山などの風景は日本の原風景といえる。

日本一の広さを誇る琵琶湖が四百万年の古より古代湖として存在し、現在まで貴重な動植物を中心とした自然が残されてきた。

これらの自然とともに生きてきた知恵、文化も含めた自然環境を体感する。



関西国際空港

1

①那智勝浦観光《熊野古道、那智の滝》
串本観光《サンゴ礁の海》

那智勝浦温泉泊

2

②高野山観光《高野山体験、精進料理》

高野山泊

3

③琵琶湖観光《琵琶湖の自然体験、
竹生島、琵琶湖博物館》

高島泊

4

④舞鶴、天橋立観光《赤れんが博物館、
舞鶴港遊覧、天橋立パワースポット》

天橋立泊

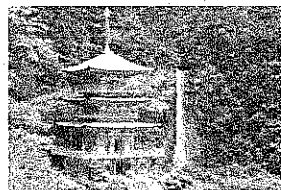
5

⑤大阪観光《水都大阪クルーズ、
ショッピング》

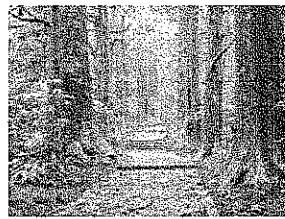
大阪泊

6

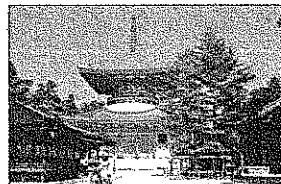
関西国際空港



那智の滝 (日本一の滝)



熊野古道 (世界遺産)



高野山 (世界遺産)



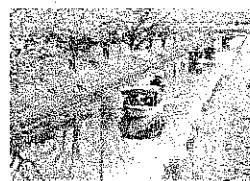
串本
(サンゴ礁北限の海)



高野山精進料理



琵琶湖風景



近江八幡水郷めぐり



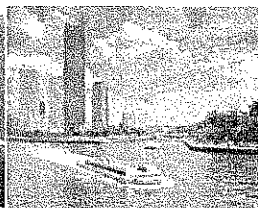
竹生島クルーズ



舞鶴湾



天橋立 (日本三景)



水都大阪クルーズ

※他にも近江八幡の水郷めぐりや嵐山保津川下りなどの奥深い資源がたくさん存在。

KANSAI 広域観光 第8-2 ルート(西ルート)

テーマ：KANSAIの自然を巡る

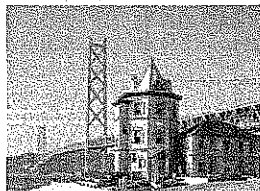
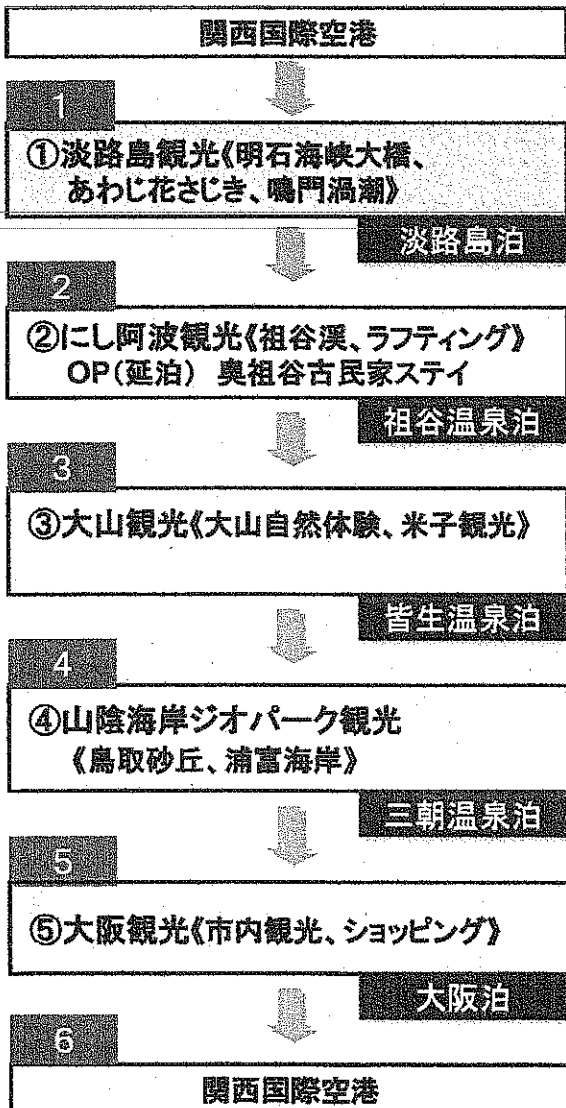
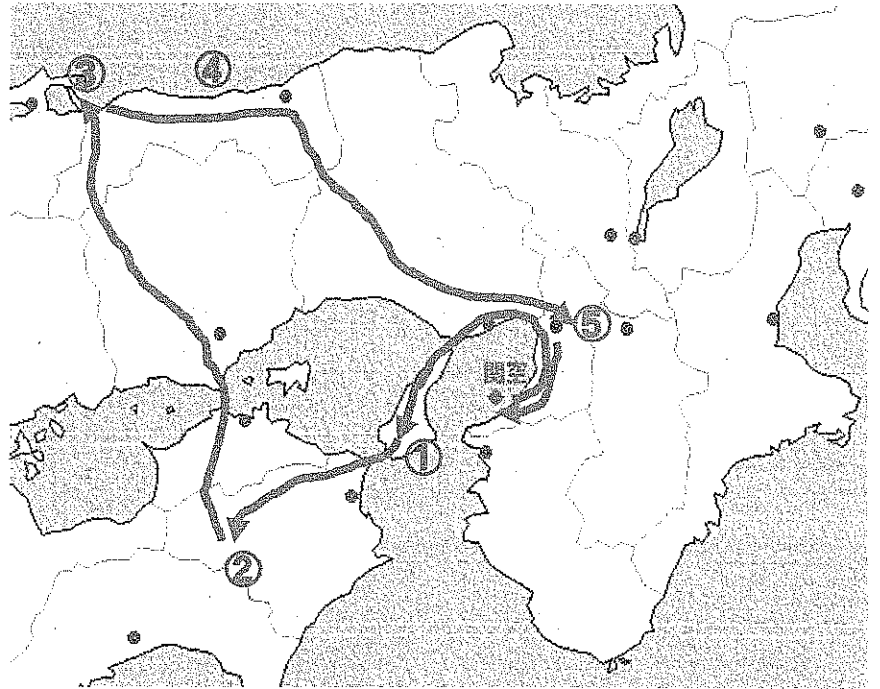
サイドストーリー

四季とともに育まれてきた日本文学

○古代の万葉集に始まり、四季折々の豊かな自然、山紫水明、花鳥風月を季語を用いて詠んだ俳句や短歌など、が多くの人々により、今日までに生み出されてきた。

また物語など数多くの古典文学にも四季折々の自然は数多く登場してきた。

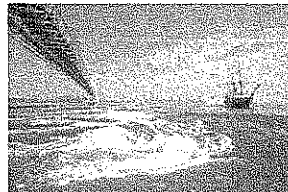
その題材となり、畏敬の念を持って接してきた自然の舞台が今日どうなっているのか、歴史・文化遺産や現代の文学、アニメ、映画などの舞台とともに巡る旅もお薦め。



明石海峡大橋 (世界一) と孫文記念館



あわじ花さじき



鳴門渦潮 (世界三大潮流)

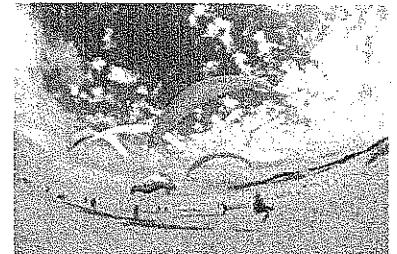


ラフティング

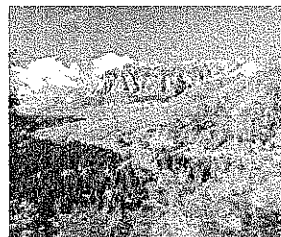


山陰海岸ジオパーク (大地の公園・地質遺産)

祖谷溪 (日本三大秘境)



鳥取砂丘 (日本一)



大山 (日本四名山)

※他にも氷ノ山などの奥深い資源がたくさん存在。

画像は転載不可